
















特に好調 ($30 \leq DI$)	好 調 ($15 \leq DI < 30$)	まあまあ ($0 \leq DI < 15$)	やや不振 ($\blacktriangle 15 \geq DI > 0$)	不 振 ($\blacktriangle 30 \geq DI > \blacktriangle 15$)	きわめて不振 ($DI > \blacktriangle 30$)

部 会	4～6月 (実績)	7～9月 (見通し)	概 況
寝 装 リビング			横ばい・悪化が多数をしめており、依然として動きが鈍い様子である。直面している問題点としては製品(加工)単価や販売単価の低下・上昇難、代金回収や取引条件の悪化、得意先の見直しや拡大が挙げられている。在庫を抱える事業所も多く、寝装関係は流行に左右されることが少ないため、時間をかけて在庫調整をしていくとのコメントあり。
織 維 ファッション			原材料は世界不況で昨年比低下の模様である。4～5年は価格もそのままの見方あり。付加価値素材の要求が増え、評価されているのに売価が厳しい様子である。現在夏物バーゲン中に付き、秋物ニット商品の発注が遅れている。又、受注があってもサンプルであり、その先に繋がらないとのコメントあり。
工 業			臨海部では、今月先月と回復の兆しあり。在庫調整も進み、工場の稼働率も徐々に上がりつつある。受注量が徐々にではあるが回復傾向だが、20年度との比較では未だ6～7割程度。内陸部では、企業の設備投資が止まり、公共事業も停滞していることで、仕事が減少している様子である。得意先からの売上が2～3割減少にあり、更に依然、原油の動向が気になる様子である。
建 設			土地価格の下落による建設業界の低迷、これに付随する設備業界も低迷。地方都市では本年度いっばい好転兆しなしとの見方あり。泉州一帯、東大阪等の中小零細の土地はまだ停滞し、新規開拓を試みるも、不渡りや未集金、値下げ要求などの懸念材料が多く消極的になりがちである。建築許可申請の複雑化等もあり、従来の金額では採算が合わないとの声あり。
運輸倉庫			海運業からは、世界的な荷動き低迷により貨物量40%売上50%減に悪化している。第2四半期以降は若干上向き、自動車輸出関連の回復が見込めるとのコメントあり。陸運業からは、寝装関係の輸入貨物の減少は激減しており、先行不安が増し新商品群へのアプローチも難しい。生産調整等で物流量が少なく、運休車輛が増え、依然、先が見えず底の感がしないとの声あり。
金融理財			不動産業からは全体として悪く、不況により賃貸料の低い物件への住み替えが増えてきたとのコメントあり。保険業からは金融危機が落ち着きつつあり、顧客の不安感が薄れてきた感があるとのこと。又、保険会社の統廃合に続き、代理店の統廃合も急ピッチで進んでいる。高齢社会の為か、遺言書作成のニーズが増しているとのコメントあり。
一般商業			エコポイントの導入で対象となる大型家電の売行きが伸びている様子である。PBに力をいれ、提携による商品開発の強化を図っているとのコメントあり。小売店からは、客単価の低下・価格の乱れ、2極化の進行により転廃業店が増加してきているようである。新型インフルエンザの影響で食品は備蓄できるものは売上増となっているが、個人消費の回復感はないとの声あり。
サービ ス 業			ホテル業・旅行業からは新型インフルエンザ発症もあり、4月以降は予想以下、アジアからの旅行客は5～6月と激減し、7月も予測は厳しいとのコメントあり。先行不安感は、変わらず益々減少傾向、景気の回復は実感はなく中小零細には、依然と厳しい様子が伺える。現状の雇用を維持するのが大変とのこと。景気は良くないが、気持ちがあればなんとかとの前向きなコメントあり。